

動きのリズム指導の現状と問題点

若松美恵子

I 問題提起

幼児期は人間形成の基盤となる大切な時期であることはいうまでもない。その精神的発達、知能、感情、社会性などの面で著しい発達をみせ、人格の核となるべき部分が形成される。また、身体的発達は、神経系、骨格、筋肉などの発達に伴い、運動機能が急速に発達し、分化していく過程にある。一般に1)幼児期には大筋運動を中心とした豊かな運動経験が必要である。2)リズムカルに身体を動かすことを快く感じる芽は、乳児期から育っている。3)幻想や空想の世界を好み、周囲のものと同化しやすい時期である。4)自分を素直に表現しやすい時期である。5)興味が自分の外に向きつつあり、社会性の芽を育てる良い時期であるといわれている。したがって、この期の子供達にとって、身体による自由表現やリズムカルな身体活動は、豊かな心身の発達を促すのに大切な経験や活動であると思われる。

しかし、実際には、指導者の経験や興味の偏りで、必ずしも望ましい経験や活動として、幼児教育の保育内容に位置づけられているとは思われない。そこで幼稚園への調査により、身体による自由表現やリズムカルな身体活動など、動きのリズム指導の現状を明らかにし、そこから、特に身体による自由表現の現状と問題点を明らかにしようとするものである。

II 研究方法

- 1) 方法：質問紙法による調査研究
- 2) 調査対象：東京都の公私立幼稚園、各園1件づつの解答を求めた（解答数 241）
- 3) 調査内容：下記の10項目であり、制限応答式、および自由記述によった。
 - ①体育指導に関する園の目標および方針
 - ②一斉保育における体育指導の有無
 - ③②について(無)の理由
 - ④-1昭和52年度の体育指導内容
 - ④-2体育指導のカリキュラム化にあたっての基本的考え
 - ④-3体育指導の指導者について
 - ⑤-1身体による自由表現やリズムカルな身体活動の指導内容
 - ⑤-2最も多く指導している内容に関して、指導して良かった点、困った点

- ⑤-3身体による自由表現の指導を通しての子供達の変化
 - ⑥-1身体による自由表現を3位までに選ばなかった理由
 - ⑥-2どういう点が解決されたら指導したいか
 - ⑦身体による自由表現の指導のための研究方法
 - ⑧幼稚園の教師として、望む研究の機会
 - ⑨在学中の、身体による自由表現に関する指導を受けた経験の有無および内容
 - ⑩体育的側面を中心にした幼稚園の理想の教師像
- なお、本研究では、質問5、6、7、8、9についてのみ検討した。
- 4) 調査期間：昭和53年5月、6月

III 結果

(1) 動きのリズム

身体による自由表現やリズムカルな身体活動について、指導しているもの全て、さらに多く指導している順に3位までをみた結果が表1である。

6つの指導内容共に50%以上とりあげられており、

表1 身体による自由表現やリズムカルな身体活動の指導内容 (解答 220)

指導内容	○印	1位	2位	3位	1~3位の合計
1 フォークダンス	203(92.3%)	37	57	42	136 (61.8%)
2 わらべ歌や歌を伴う遊戯	182(82.7%)	22	24	40	86 (39.1%)
3 リズム遊戯	207(94.1%)	76	62	34	172 (78.2%)
4 リトミック	124(56.4%)	37	18	17	72 (32.7%)
5 身体による自由表現	175(79.5%)	28	28	54	110 (50.0%)
6 唱歌遊戯	129(58.6%)	18	16	11	45 (20.5%)
7 その他	2				

動きのリズム系が幼児教育の中でしめている位置を推察できる。さらに、80%しめているのは、リズム遊戯、フォークダンス、わらべ歌や歌を伴う遊戯、身体による自由表現であり、分野別に、1・2のパターンのある伝承的なもの、3・4の基本的動きに関わるもの、5・6の表現系とわけてみると、3分野にわたって指導が行われていることがわかる。さらに細部的にみると、リトミックは124/220(56.4%)しか指導されていないにもかかわらず、指導内容の1位にあげられた数は37と高く、指導している園では、

かなり時間をかけ、熱心に指導していることが認められる。

(2)動きのリズムの指導内容についての価値意識

最も多くの時間を充てている指導内容に関して、指導して良かった点についてまとめたものが表2である。

表2 指導して良かった点

指導内容	フォークダンス (37)	わらべ歌や歌を伴う遊戯 (22)	リズム遊戯 (76)	リトミック (37)	自由表現による (28)	唱歌遊戯 (8)	合計
指導して良かった点							
誰もが楽しめ、友達ができる	35	18	16	4	9	2	84
身体がリズムカルに動くようになる	15		70	19	9	5	118
表現が豊かになり、創造性が養われる			11	7	27		45
集中力がついた			8	19			27
他の身体活動や音楽活動などに意欲的になった	7		19				26
歌と動きを同時に楽しめる		11				8	19
自信が付き、積極的に行動するようになる			8		9		17
反射神経を養い敏捷になる				20			20
楽しんでステップや動きを覚えた	14						14
ものとのらえ方、感じ方が豊かになる					14		14
気分や雰囲気柔らかげ、のびのびと解放的になる			7				7
他の創造活動にも意欲的にとりくむ					7		7
歌うことを楽しむ						2	2

表2に示す通り、「誰もが楽しめ、友達ができる」が全指導内容にあげられ、また「身体がリズムカルに動くようになる」がわらべ歌や歌を伴う遊戯を除いた5つの指導内容にあげられている。すなわち、「誰もが気軽に楽しむことができ、良い仲間作りができる」と「身体がリズムカルに動くようになる」が動きのリズムの特性であるといえよう。さらに細部的にみると、フォークダンスや、わらべ歌や歌を伴う遊戯のように、パターンのある伝承的なものは「誰もが気軽に参加し、楽しめ、友達ができる」などの効果意識が高い。リズム遊戯やリトミックなど基本的な動きに関わるものでは「リズムカルに敏捷に動けるようになる」などの動きの開発に関する効果意識が高い。身体による自由表現では創造力、表現性に関する効果意識が高い。

指導して良かった点、困った点についての具体的

な記述(表3)についてみると、指導して良かった点では、指導内容の各特性に応じて^{79%}十面が明らかに認識されており、困った点では、その指導内容がもつ特性が、逆に^{71%}に働く点を指摘している。例えばリトミックの良かった点では「話を注意して聞こうとする態度が養われつつある」とあるのに対し、困った点では、「やりすぎると指示がないと動けない」とある。すなわち、指導して良かった点と困った点は、表裏一体の問題を含んでいるとみられるよう。(表3参照)

(3)身体による自由表現による子供達の変化

身体による自由表現の指導を通して、子供達はどのように変化したかについての自由記述をみると(表4)項目1~4の「表現の喜び」「積極的活動」「創造的態度」「興味関心」についての子供達の変化を多く認めており、少数ではあるが、「身体の動き」「友達関係」についての変化の効果も認めている。すなわち、この子供達の変化には、身体による自由表現のねらいが網羅されており、その特性が浮きぼりにされているといえよう。

(4)身体による自由表現を指導内容の3位までにあげない理由、およびどういふ点が解決されたらもっと指導したいかについて

身体による自由表現を指導内容の3位までにあげていないのは、表1に示す通り110園、すなわち解答数の約^{1/3}である。理由については表5に示す通り、「指導内容・方法がよくわからない」が全体の49%に達し、他の理由の多くは多くはこの分野に対する、指導者の素養のなさを訴えている。

次にどういふ点が解決されたら指導しやすいかについてみると「指導内容・方法がよく解つたらやってみたい」が約59%と最も多く、前述の理由と同様に素養の不足を訴えている。すなわち、養成校では、幼児の実際の指導の内容・方法の詳細を明らかにして、指導者の養成に当らなければならないことが、ここからも指摘することができる。

(5)身体による自由表現に関する研究

身体による自由表現の指導のための研究を何らかの形でした人は約79%であり、内容は表6に示す通り、「保育雑誌を読んだ」「実技を伴った研修会などに出席した」が多くあげられた。

(6)指導者が望む研究の機会

どのような研究の機会を望むかについては、表7に示す通り、「実技を伴った研修会」「公開保育の参観の機会」を望むものが多い。

(7)在学中の身体による自由表現の指導を受けた経験の有無

在学中に、身体による自由表現に関する指導を受

表3 指導して良かった点、困った点

	良 かった 点	困 っ た 点
フォークダンス	<p>皆で楽しめ、友達ができる (35)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムにのって、教師、子供、年長、年少、障害児の区別なく皆で楽しめる。 ○特定の友達以外の人との交流も深まったようである。 <p>曲に合わせてリズムカルに動くことができる (15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム感のない子でも全体でやると、自然にリズムにのってくる。 <p>楽しんでステップや動きを覚えた (14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無理なく、ステップを数種類覚えられるようになった。 ○動きが単純でくり返し行うので、誰でも好んで覚えた。 <p>他の身体活動や音楽活動などに意欲的になった (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○常に音楽を聞きながら、楽しんで身体を動かしたり、楽器遊びも自分達で進んでやる。 	<p>パターンの決ったものを幼児に教える困難 (27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ステップ、パートチェンジなど、皆に理解させのが困難。 ○大勢でやると、できるようになった子はふざけ始める。 ○女兒は喜んで参加するが、男児はなんとなくテレてふざけてやる子が多かった。 ○パターンが決っているので子供達はあきてしまう。 <p>教師自身の問題 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師自身、指導内容をきちんととらえ、段階的指導をできなかった。
歌を伴う歌や遊戯	<p>容易に参加でき、友達との交流ができる (18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手をつないだり、向いあったりして、友達との交流がもたれ、その後の遊びにも発展がみられる。 <p>歌と動きを同時に楽しめる (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ただ歌うだけでなく、子供らしい動きがみられ、楽しんで参加していた。 	<p>わらべ歌の特性による困難 (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じことのくり返しなので、発展性がなく、すぐに飽きる子が多かった。 ○わらべ歌の言葉の理解が難しい。 <p>指導上の問題 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人差があるので一斉指導が難しい。
リズム遊戯	<p>リズムカルにのびのびと身体を動かすようになる (70)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム感がつき動作が敏捷になる。 <p>他の活動とも関連があり、有効である (19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢も正しくなり、リズム遊戯だけでなく、トランポリン、とび箱、平均台、マット、ナワ、ボールなど他に共通なリズムカルな動きができるようになる。 <p>友達と一緒に動け、仲間ができる (16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普段、遊びの仲間になかなか入ろうとしなかったり、じっと椅子に腰かけている傾向の子供も喜んで参加するようになった。 <p>表現が豊かになり、創造性が養われる (11)</p> <p>気分や雰囲気柔らかげ、のびのびと解放的になる (7)</p>	<p>指導方法の問題 (32)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導の内容の展開に工夫がないと、マンネリ化する。 ○子供の自由な動きを大切にしながら、基礎の動きを教えるにはどうしたらよいか。 <p>伴奏 (13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の動きにあった伴奏が難しい。
リトミック	<p>反射神経を養い、動きが敏捷になる (20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行動が機敏になる。 <p>注意力、集中力を養う (19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話を注意して聞こうとする態度が養われつつある。 <p>リズム感が養われ、音楽への興味を深める (19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然にリズム感がつき、音に敏速に反応する。 	<p>指導方法 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人差が大きいので、指導方法に苦勞する。 ○やりすぎると指示がないと動けない。 ○指導に時間がかかりすぎる。
身体による自由表現	<p>発想、想像、創造の豊かさや表現力の豊かさ (27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大人にはない発想や、表現力、目の輝き、物事をまるごととらえられる素晴らしさにびっくりする。 ○与えられたものでなく、自分達のものとして、想像力を働かせ、色々発展させるなど、意欲的に参加してくる。 <p>ものの感じ方、とらえ方が豊かになった (14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物事に対して心の触れあいを持つようになってきて、心を通わせてみることができ、敏感になった。 ○動物、植物、色々なものに興味をもってみる目を養い、その違いに気づかせるきっかけとなった。 <p>身体がリズムカルにのびのび動く (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自由ののびのび動く喜びをもてる。 ○リズム感がなく、フォークダンスなどにうまくのれない子供も、気分を出して伸びやかに動ける。 <p>友達と一緒に表現する良さ、楽しさを経験する (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と協力して表現する楽しさを子供達自身充分味わえた。 ○子供達同志、良い表現を互いにみて覚ふことができる。 <p>積極的になり、自信をもつことができた (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自由表現をのびのびさせると、気の弱い発言力のない子の中にリズム感のある子を発見し、自信をつけることができる。 <p>他の創造活動も意欲的にとりくむ (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○印象が鮮明になったため、物事への興味がわき、絵画や制作が工夫され、動きのあるものになった。 	<p>指導方法 (17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現をより盛り上げる言葉かけの工夫が難かった。 ○子供の中にある「動きのパターン」を脱していくのに苦勞した。 ○表現は個々によって違う、又これがいいと決めにくいところもあり、教師のとりあげ方でどうにでも変わっていく難しさをもっている。 <p>伴奏 (7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピアノを使用することが多いが、幼児が表現したいことや、教師の意図する感情表現を教師自身ピアノに充分表現することができない。 ○表現させようと思った時、雰囲気を盛り上げるような音楽がうまくみつからない。

唱歌遊戯	<p>身体を動かしながら、言葉や曲を覚え、楽しんでできる(8)</p> <p>○身体を動かすことによって、言葉や音に興味をもつようになり、歌の意味を理解できるようになった。</p> <p>楽しんでリズムにのれる(8)</p> <p>○楽しんで行うため、リズムにのりやすい。</p>	<p>歌と遊戯の両立の問題(7)</p> <p>○動作に注意がゆき、歌がおろそかになりやすい。</p> <p>既成の動きを覚えることの問題(3)</p> <p>○表現方法が固定観念化する恐れあり。</p> <p>○覚えた後、あきやすくマンネリ化する。</p>
------	--	---

表4 身体による自由表現の指導による子供達の変化

項目	変化(頻数)	事例
1	<p>表現が豊かになり、表現することに喜びを感じるようになった。(66)</p>	<p>○動作がぎこちなく、他人の模倣するばかりで、個人差とか、創意工夫がみられず、面白味がなかったが、何回もの経験をつんだことや、教師の助言により、動作にも面白味が感じられ、自信のある楽しい表現ができるようになった。</p> <p>○身体表現だけでなく、言葉の表現も豊かになった。</p> <p>○内気な子供でも、皆の前で表現して遊ぶことができる。</p>
2	<p>表情が明るく、伸びやかになり、自信をもち、自主的、積極的に行動するようになった。(47)</p>	<p>○自由表現の楽しさを知り、積極的に参加するようになると、自由表現の場だけでなく、色々な面で積極的な態度をとるようになった。</p> <p>○表現遊びをした後は、子供の表情も明るく、のびのびとしている</p>
3	<p>想像性、創造性が養われ、工夫して遊ぶようになった(34)</p>	<p>○身体表現したものが、製作活動にも生かされ、イメージをえがくことができ、絵や製作にも表現されている。</p> <p>○遊具に頼らずに、自分達で工夫して遊ぼうとする態度が回を重ねるに従って多くみられるようになった。</p>
4	<p>色々な事象に興味をもち、心を通わせてみるようになった(31)</p>	<p>○色々な動物、乗り物、自然物を表現することにより、次にそれらを見るとき、一歩進んだ観察をしている。</p> <p>○細かい事象を発見し、おどろき、喜びを感じるようになった。</p>
5	<p>身体がリズムカルに伸び伸び動くようになった(19)</p>	<p>○美しくリズムカルな動きが身についた。</p> <p>○身体を動かすことの喜びを知ったようだ。</p>
6	<p>友達と協力して活動できるようになり、友達とのつながりが深くなったり広まったりした。(15)</p>	<p>○グループで1つの目的に向かって協力して表現できるようになった</p> <p>○友達と一緒に創りあげる楽しさを知る。</p>
7	<p>友達の表現をみる目や態度が養われた。(14)</p>	<p>○1人1人のとらえた表現を相互に見あうことにより、さらに表現の巾が広がってくる。</p>
8	<p>集中力が養われた(4)</p>	<p>○先生の話に注意して聞こうとするようになる。</p>
9	<p>その他(10)</p>	<p>○子供独自の良さが発揮できてくる。</p>

(分類項目は筆者、事例は原文どおり)

表5 3位までにあげなかった理由およびどういう点が解決されたら指導したいか。

	項 目	解答82園
3位までに選ばなかった理由	自分が身体による自由表現を経験したことがないから	10 (12.2%)
	自分が身体による自由表現を経験したことはあるが好きになれなかったから	11 (13.4%)
	自分のまわりに良い理解者がいないから	2 (2.4%)
	自分を指導してくれる人がいないから	19 (23.2%)
	施設, 用具が整っていないから	7 (8.5%)
	時間が少いから	26 (31.7%)
	指導内容, 方法がよくわからないから	40 (48.8%)
	身体による自由表現の良さがわからないから	18 (22.0%)
	その他	33
どうい う点 もつ と解 決さ れた ら い か	自分を指導してくれる人に恵まれたらやってみたい	23 (28.0%)
	施設, 用具が整ったらやってみたい	6 (7.3%)
	良い理解者がいたらやってみたい	4 (4.9%)
	時間がとれたらやってみたい	22 (26.8%)
	指導内容・方法が良くわかったらやってみたい	48 (58.5%)
	身体による自由表現の良さがわかったらやってみたい	14 (17.1%)
	その他	6

表6 1年間にどのような研究をしたか

研 究 の 方 法	解答197園
教育書を読んだ	56 (28.4%)
保育雑誌を読んだ	102 (51.8%)
実技を伴った研修会などに参加した	82 (41.6%)
公開保育を参観した	28 (14.2%)
関係の講演を聞いた	34 (17.3%)
指導方法を研究するサークルに出席した (園外)	17 (8.6%)
園内の研究会に出席した	26 (13.2%)
舞踊作品を鑑賞した	35 (17.8%)
絵画, 彫刻, 音楽, 演劇などの作品を鑑賞した	60 (30.5%)
その他	14
特別に勉強していない	41 (21.5%)

表7 指導者が望む研究の機会

研究の機会	解答 216園
教育書	82(38.0%)
保育雑誌	62(28.7%)
実技を伴った研修会	175(81.0%)
公開保育の参観	146(67.6%)
関係の講演	85(39.4%)
指導方法を研究するサークル	108(50.0%)
園内の研修会	62(28.7%)
舞踊作品の鑑賞	55(25.5%)
絵画、彫刻、音楽、演劇などの作品の鑑賞	76(35.2%)
その他	14

けたのは153/226(67.7%)であり、受けなかったのは63/226、記憶なしが2/226、記入なしが8/226であった。

次に、在学中の自由な身体表現に関する経験の有無と、指導者となった現在、自分が身体による自由表現を指導内容としているか否かとの関係を見ると、指導を受けた153名中、130名が指導内容としており、21名が指導内容としていない(2名記入なし)。さらに、この21名について、指導しない理由を質問6「身体による自由表現を3位までに選ばなかった理由」からみると、「指導を受けたが好きになれない」「自由表現の良さが解らない」「自信をもって指導できるまでになっていない」などがあげられた。このことも前述と同様、養成校における自由な身体表現の指導内容や方法の問題点にかかっていると思われる。

一方、指導を受けなかった63名の中で、38名が現在指導内容としているが、その指導状況は、本調査で明らかにすることはできなかった。そして在学中に指導を受けていない人の半数近くが、やはり卒業後、現場で指導していないことは、見過すことができない。

IV 考 察

(1) 動きのリズム指導の現状と問題点

動きのリズム指導の主な指導内容は、リズム遊戯、フォークダンス、わらべ歌や歌を伴う遊戯、身体による自由表現である(80%以上指導)。

動きのリズムの特性として1)誰もが気軽に楽しむことができ、良い仲間作りができる。2)身体がリズムミカルに動くようになるなどが共通にあげられている価値感である。これらの特性の上にさらに、各指導内容の特性が加味されて、独自の価値感もたれ

ていることが明らかになった。

各指導内容の特性と問題点については次の通りである。フォークダンスでは、皆で楽しみながら、ステップや動きを習得でき、リズムミカルに動けるようになることを特性としながらも、型の決った動き、ステップを幼児に一斉指導する難しさがだされた。わらべ歌や歌を伴った遊戯では、歌と動きを皆で容易に楽しめることを特性としながらも、言葉の理解の困難、反復による発展性の問題がだされた。リズム遊戯では、リズムミカルに伸び伸びと身体を動かし、開放的な気分になるなどを特性としながらも、指導方法・技術の難しさが出された。リトミックでは、反射神経、注意力、リズム感などが養われることを特性としながらも、個人差の大きい幼児への一斉指導の難しさがだされた。身体による自由表現では、発想、想像、創造の豊かさや、身体がリズムミカルに伸び伸びと動くようになり、良い仲間作りができることを特性としながらも、子供達から動きを引き出し、高める指導方法の困難がだされた。唱歌遊戯では、言葉や曲を覚えながら、リズムミカルに身体を動かすことができることを特性としながらも、歌と動きの両立や、既成の動きを覚えることの問題が出された。

これらの結果から、指導者が、1つの指導内容に片寄ることなく、各々の指導内容の特性を理解し、幼児の発達と指導目標に応じて、豊かな指導を展開すべきであると、明確に把握しているかどうかは明らかにならなかった。しかしこのことは今後の重要な問題である。

(2) 身体による自由表現の現状と問題点

約80%の幼稚園で身体による自由表現を指導内容としていることから、自由表現は幼稚園の保育内容として定着しつつあることが明らかになった。また、指導者達は身体による自由表現の価値を十分に認め、さらにその特性も適格にとらえていることが、前述の「子供達の変化」および「指導して良かった点」で明らかになった。

しかし一方、「指導して困った点」では、「指導内容、方法がわからない」とする訴えが最も多いことが明らかになった。これらを合わせみると、指導力不足の教師には、身体による自由表現はとりかかりにくい指導内容ともいえよう

(3) 指導者養成の問題点

幼稚園の指導者の約70%の人が在学中に、身体による自由表現の指導を受けているが、その13%の人は現場で指導していない。その原因は指導者自身の資質や努力の問題もあるが、指導者養成校のもつ問題が大きいと考えられる。相場達による「指導者養成に関する問題」における身体による自由表現に関する調査においても、自由表現に最も時間をかけて

いる指導者達はその理由を、「自由に表現する良さをわかっている」「自分が踊ったり、創ったりすることが好きだから」「自分が自由な身体表現の指導をうけたことがあるから」などをあげており、また、自由表現をあまり指導していない指導者達は、その理由に、「指導内容、方法がよくわからない」「時間が短い」などをあげている。すなわち、養成校の「身体による自由表現の指導内容、方法がよくわからない」という問題が、そのまま幼稚園の問題となって反映されていることがわかる。以上のことから、幼稚園の指導者が、身体による自由表現を、幼児に指導するか否かは、学生時代にその内容をどのように経験し、価値を認識したかどうかにかかっている点が多いというよう。その為には、養成校の指導者は動きのリズム領域の各指導内容特性を類別して、発達の特性とてらして、指導計画をもち、特に、自由表現の本質を理解させ、その価値を十分に認識させ、さらに動いたり、創ったりする楽しい経験を通して、幼児指導法を習得させることができるように、その指導法を研究していかなければならないと思われる。

本調査は以上の結果を得たわけであるが、動きのリズムの指導内容の選択は並列的に共存しており、その選択が、幼児の側よりも、指導者の側の理由によって行われているのではないかと推察された。この点は今後の大きな課題である。

幼稚園教諭、保母の養成にあたっている筆者自身として、次の2点を今後の課題として、指導の充実をはかるため努力していきたい。

- ① 身体による自由表現を文化のパターンとしての系列だけでなく、子供の発達をとらえた研究を合わせて行い、試案を出すこと。
- ② 身体による自由表現の詳細な指導例を保育者に提示すること。

最後に、本調査に協力いただいた幼稚園の指導者各位に感謝いたします。

引用および参考文献

- 1) 昭和52年度日本女子体育連盟研究：相場了，佐分利育代，柴真理子，辻元早苗，若松美恵子，「指導者養成に関する問題—幼児教育—特に動きのリズムを中心として」第11回全国女子体育研究大会研究紀要，135～149，1977
- 2) 松本千代栄他：幼児教育学全集6・情操と表現，小学館，1971
- 3) 松浦義行：新体育学講座67巻・発達運動学，逍遙書院，1975
- 4) ヴィゴツキー著，福井研介訳：子供の想像力と創造，新読書社，1974
- 5) ゴダーイ研究所：子どもの集団，遊び，音楽，明治図書，1972
- 6) 松本千代栄他：「幼児の発達と動きのリズムの指導に関する研究」日本女子体育連盟紀要，1975

(本論文の要旨は第6回舞踊学会—1978.10.7において発表した)

付説 本研究に御指導賜りました。お茶の水女子大学松本千代栄教授に深謝いたします。